

矢谷令子(シリーズ監修)
福田恵美子(編)

《標準作業療法学 専門分野》
発達過程作業療法学

太田篤志
(姫路獨協大学作業療法学)

本書は、作業療法専門科目を学習するための《標準作業療法学専門分野》シリーズの1冊であり、いわゆる「発達障害作業療法学」の教科書である。編者である福田恵美子先生は、長きにわたり発達障害に対する作業療法の実践および教育に携わっている第一人者である。福田先生の作業療法士として偏りのない実践スタイル、臨床実践プロセスを明確に示す態度は、このテキストにも反映されており、教育に携わる私たちが安心して使用できる教科書に仕上がっている。

“発達過程作業療法学”という本書のタイトルに戸惑ったのは、評者だけではないであろう。従来、この領域のテキストは、「発達障害作業療法学」と呼ばれているが、本書ではあえて「発達過程作業療法学」としている。編者の「序章」によれば、障害とは機能を果たさないという意味を持ち、子どもの場合、機能を果たしていく要素を目覚めさせていくことが可能との立場から、あえて「発達過程作業療法」という言葉を用いたとのことである。本書は、この福田先生の“子ども観”と、子どもの無限の可能性に挑んでいく作業療法士を育成したいという思いが随所に込められている教科書である。

本書の第1章「発達過程作業療法学の基礎」、第2章「発達過程作業療法の実践過程」では、概要、子どもの発達段階、発達遅滞の概念、実践プロセスなどについて述べられている。発達過程作業療法において子

どもの正常発達を学ぶことは非常に重要である。これまで私たちは、ピアジェ等の研究者によって示されている発達段階を利用し教えることが多かったが、本書では従来の考えを整理しつつ、作業療法実践の視点での独自の発達区分を示している。このような作業療法士による発達段階指標を用いて発達過程作業療法を教えることができるようになってきたことは、本当に喜ばしいことである。また本書では、健常児の発達段階やそれに対応した発達遅滞の症状など、多様な情報が統合・整理された簡潔な図表が多く掲載されており、膨大な知識に圧倒され整理できない学生の学習を助ける工夫がなされている。さらに、巻末資料である遊びの分類、遊びの展開図は臨床家にも有用な資料となっている。

第3章「発達過程作業療法の実践事例」は、疾患別の作業療法実践モデルについて、長い臨床経験を持つ執筆陣により医学的知識、評価手法、介入方法等が実践的にまとめられている。詳細な事例提示がなされている疾患もあり、学生が最も苦手とする臨床的推論、すなわち教科書的な知識を実際の事例に対してどのように活用・統合するのかという学習を促すことが期待できる。学生は、事例を通して現場の作業療法士がどのような現象を記録し、どのように解釈し、具体的にどのような対応を選択して実施したのかを実践的に学習することができるであろう。

「作業療法介入は、子どもたちの“命の輝きのために”あらゆる手段を活用して行うことである」と編者は述べている。本書で学ぶ学生がそのようなセンスを持った素敵な作業療法士になることを願っている。

●B5 312 頁

定価 4,200 円(本体 4,000 円+税 5%)

2006 年 医学書院・刊